

地域の支え合い型交通を市が後押し

総社市版ライドシェア 始発便、出発進行！



1週間分の買い物を終え車へ。大きな荷物は、スタッフがトランクへ積み込む



行きは集会所から出発するが、帰りは荷物が増えるので自宅前まで送る



重い荷物を持って段差を上がるのは大変。代わりにスタッフが玄関先まで運ぶ

Interview



一言で表すと
「団地内での
助け合い」です

三須桃山団地
買い物援助隊
会長 内田正志さん

6年前、外出に困っている人が団地内にいると聞き、有志でタクシーに相乗りして買い物に行ったことが買援隊の始まりです。現在は、スタッフ3人が自家用車を使って、団地内に住む利用登録者11人の買い物・通院・ごみ収集を支援。もともと近所で面識がある間柄なので、特別なことをしている意識はなく、できる範囲で楽しく活動しています。

毎週水曜日、買い物に向かう皆さんは決まって笑顔で集まります。ただ買い物を済ませるだけでなく、人と会ってたわいもない話をする、店内を歩き自分の目と手で欲しい物を探す、その積み重ねが皆さんの生活を潤し、健康維持にもつながっていると感じています。

総社市版ライドシェアとして、行政の支援が始まったことで、特に安全面でとても心強いです。これから移動支援の取り組みを始める人には、ぜひ制度を上手に活用してほしいですね。活動する人が増えるのは大歓迎です。私たちがいつかは利用者側になりますから（笑）。

「行」ってらっしゃい」。8月7日、三須桃山団地の集会所から、3台の車がスーパーマーケットに向けて出発しました。運転するのは、ボランティアグループ「買い物援助隊（通称・買援隊）」のスタッフ。運転免許証を返納した高齢者など11人が分乗し、近所の人と共に買い物を楽しみます。

地域の支え合い型交通によって高齢者の移動手段を確保する団体に對し、市は、「総社市版ライドシェア」として、その取り組みへの支援を開始しました。買援隊は、その第1号に登録。登録後、初めて運行したこの日、出発式が行われました。

Q 総社市版ライドシェアって？

A 地域の支え合い型交通を行う団体を市が支援する仕組みです

地域の支え合い型交通とは、地域の団体が主体となり、その地域に住む高齢者の買い物などを目的に、車両を使いボランティアで移動支援（ボランティア運送）を行う取り組みです。その取り組みに對し、団体が安心して活動できるよう、市が安全対策の支援をする仕組みを総社市版ライドシェアと呼びます。

※総社市版ライドシェアは、ボランティア運送（道路運送法における許可又は登録を要しない運送）を行う団体を支援するものです。最近国内で広がりを見せている道路運送法における許可または登録が必要なライドシェア（タクシー事業者の管理の下で一般ドライバーが自家用車を活用して行う有償運送など）とは異なります。

Q どんな支援があるの？

A 具体的には次のとおりです

- 車載カメラ装置（通称・ドライブレコーダー）の貸与
- アルコール検知機の貸与
- 自家用有償旅客運送の大臣認定講習の費用と受講手続き代行
- 運行時の自動車保険の費用

Q 私も買い物などで利用できますか？

A 地域の実施団体に相談してください

移動支援を実施している団体の活動範囲内に居住していることが、利用できる要件となります。また、団体ごとに利用方法や運行方法が異なるので、まずは居住している地域の実施団体へ相談してください。

8月9日現在、総社市版ライドシェアへ登録しているのは、三須桃山団地・富原・福谷の3団体です。

※総社市版ライドシェアには登録せずに移動支援を実施している団体もあります。

Q 私の住む地域でも始めたい！

A ぜひ交通政策課に相談してください

団体として登録するための条件や活動内容、その他について丁寧に説明します。

問い合わせ 交通政策課（☎0866-92-8249）

市ホームページでも
制度を紹介しています



HP